

スウェーデン留学を終え、活動拠点を日本へ...

今回はトレーニング中に発生したまさかのアクシデント！

## 恐怖の7月27日

一日に二回ほど死にかけました。ちょっと言葉が悪いかもしれませんが、これ以上ふさわしい表現はありません。こんなについていない日はなかなかあるものではありませんね。

この日私は宮城県から山形県へ蔵王エコーラインを通して自転車で行く予定でした。予定通りの時間に仙台を出発して10分後、交差点を直進しようとしていたところ、急に追い越し、左折してきた車に巻き込まれました。

その瞬間はまさに「あっ」という間で、人間の体はそうも簡単に「吹っ飛ぶ」ものだ、初めて体感したのです。自分ではどうもできず、ただただ流れに身を任せ、地面に落下し、痛みをこらえながら倒れた自転車を起こし、道路脇へといきました。

その後は相手の運転手と警察を呼び、現場検証の後、病院へ行き検査をしてきました。軽い擦り傷と打撲のみで大怪我にはならなかったのが、不幸中の幸いでしたが、一歩間違えば重症だったと思うと、今でも恐ろしいです。

今回の事故は、私に過失はありませんでしたが、事故には気をつけようと再認識しました。

とまあ、ここで終わってれば、まだ一回しか死にそうにならずに済んだ

のですが... 予定していた蔵王エコーライン越えを午後から決行したのです。

警察だ、病院だ、時計はすっかり午後になっていた、時間的に厳しい感じはあったのですが、この前反対側から登ったベースでいけばまあ問題ないだろうと甘くみていました。

さらに、今回は一人ではなく一緒に走ってくれる仲間がいたので安心感もありました。

ところが、登りはじめてみると、その道のりはやはり長く、一時間や二時間で制覇させてくれるような甘い山ではありませんでした。

日は傾きかけ、車はほとんど通らなくなり、持っていた水は一度底を突き、食料も限界ギリギリとなりました。もちろん、食料よりも体力の方が限界だったことは言うまでもありません。

山の中腹で奇跡的にも自動販売機を見つけ水分は補給しましたが、その頃から昼間の暑さがうそのように、気温が下がりはじめました。そのときの服装は、通気性抜群のTシャツと膝の上までのタイツ1枚でした。

苦しさに耐え、まだかまだかとペダルを回すこと数時間。

「やっと登りきりました。」  
しかし！ここからが地獄でした。

時刻 19:30

場所 蔵王エコーライン頂上

装備 自転車(ライトなし)

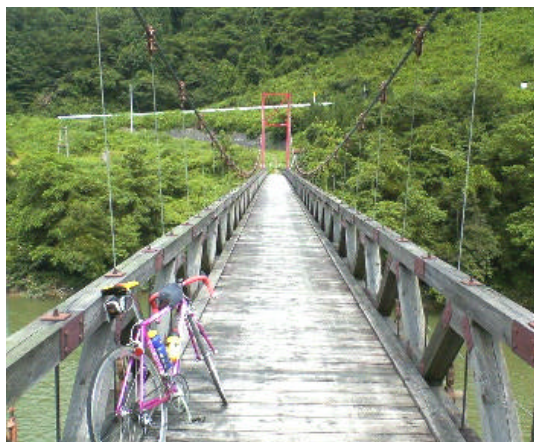
携帯電話 圏外

天候 霧、強風

この状況で、パンクでもしたら... スベアチューブ、ポンプは持っているものの、修理する時間・エネルギーは残っていません。

転んで怪我でもしたら... すでに午前中交通事故に合い、怪我しているだろうというつつこみはナシで。

足でもつって動けなくなったら... 自力で下れなくなったら、死の危険性



トレーニング中に通りかかったつり橋。夏の風を全身に受けるサイクリングは最高！

大。交通量ゼロですから。

最悪の事態を頭に浮かべながらも、できることはたった一つ、慎重に慎重に下ることです。疲労困憊の上、真っ暗でどこが道路もわからないような状況の中、寒さで全身がブルブル震えていました。まさに恐怖のダウンヒル。途中、森の中では動物の目らしきものが不気味に光っていました。

やっとの思いでライザスキー場まで下りたときは「生きて帰れた」と思いました。距離にしてほんの十数キロしか離れていない世界ですが、自然の偉大さを体感しました。

## 一年ぶりのレースで二冠

米本路恵君追悼 2 日間大会は私にとって一年ぶりのフットOの大会でした。スウェーデンでは冬の間フットOができません。そして日本に帰って来てからはさくらんぼ大会の運営などで、帰国第一戦は米本路恵君追悼 2 日間大会となりました。

ずいぶんフットのレースを走っていなかったため、技術面では大きな不安を抱えたままスタートしました。予想通り、1ポまでのルートで全く地図が読めておらず、フラフラした感じの走りでしたが、全体として大きなミスはなく、レース中に少しずつ感を取り戻しつつ無事ゴールできました。

強豪選手が世界選手権やユニバーのため出場していなかったとは言え、このレースでの二冠は私にとって大きな自信となりました。

(堀江守弘)



スキーO 夏季合宿の最終日は、雲の中の山頂までポールウォーキング。筋肉痛の体にムチを打ち、みんな必死に登りました。